

## 会場案内・地図



## 第13回全国宅老所・グループホーム研究交流フォーラムinおきなわ

- ◆日 時 2010年2月27日(土)～28日(日)
- ◆主 催 「第13回全国宅老所・グループホーム研究交流フォーラムinおきなわ」実行委員会  
宅老所・グループホーム全国ネットワーク／沖縄県宅老所連絡会
- ◆共 催 特養・老健・医療施設ユニットケア研究会／地域サテライトケア推進プロジェクト／小規模多機能ホーム研究会  
地域共生ケア研究会／財団法人沖縄県労働者福祉基金協会
- 定 員 600人
- 参 加 費 12,000円
- 参考資料代 3,000円 ※宅老所・グループホーム全国ネットワーク会員は1,000円／1会員1人のみ
- 懇 親 会 3,000円 (豊見城市中央公民館にて)

### 参加申込先・申込みに関するお問い合わせ先

株式会社 エアー沖縄  
〒900-0015 沖縄県那覇市久茂地1-1-1 パレットくもじ3F 担当:長谷川・雪丸  
TEL.098-867-0166 FAX.098-867-8001

### 内容に関するお問い合わせ先

「第13回全国宅老所・グループホーム研究交流フォーラムinおきなわ」実行委員会 事務局  
宅老所・グループホーム全国ネットワーク  
〒981-0954 仙台市青葉区川平5-3-18-207(CLC内) 担当:高木・国分  
TEL.022-719-9248 FAX.022-719-9251

※12月27日以降は事務所移転に伴い、住所・電話・FAX番号が下記の通り変更になります

〒981-0932 仙台市青葉区木町16番30号 シンエイ木町ビル1F(CLC内) 担当:高木・国分  
TEL.022-727-8731 FAX.022-727-8737

●表紙の言葉:「ちばらなや わした! 肝愛(チムガナサ) あふれるまちづくり」とは、「がんばろう みんなで! まごころ あふれるまちづくり」という意味です。

## 第13回 全国宅老所・グループホーム研究交流フォーラム in おきなわ

地域で生きる

地域で老いる

地域で死ぬ

その今を大切に  
人のつながりにこそ暮らしを支える力がある  
そんな街で暮らしたい・・・!



あふれる  
まちづくり  
肝愛  
チムガナサ  
わした!  
ちばらなや

2010年2月27日(土)～28日(日)  
豊見城市立中央公民館 (沖縄県豊見城市)

主催 「第13回全国宅老所・グループホーム研究交流フォーラムinおきなわ」実行委員会  
宅老所・グループホーム全国ネットワーク／沖縄県宅老所連絡会

開催  
趣旨

介護保険制度が生まれて10年目を迎え、急速に高齢化が進むなか、介護や支援を必要とする高齢者は増加しているものの、高齢者が置かれている状況は厳しく、高齢者の地域生活を、介護保険制度だけで支えることは、難しいのが現実です。

13回目を迎える今回のフォーラムでは、「住み慣れた地域で、最期まで暮らし続けたい」という高齢者の思いを受け止めて、制度の枠組みを越えて暮らしの継続を支援してきた宅老所の真のあり方を再確認し、地域における宅老所の役割と、これからの方向性を議論するとともに、開催地沖縄県の「ゆいまーる文化」に代表される、人と人とのつながりを大切にしたい助け合い、支え合う活動に学び、誰もが地域で暮らし続けるために必要な支援のあり方について考え合います。

1日目  
2/27(土)

## 住み慣れた地域で最期まで暮らし続けたい、誰もがここから願うことを実現するために…

13:00~13:20 **開 会** 主催者挨拶 実行委員長 新垣幸子  
歓迎挨拶 沖縄県知事 仲井眞弘多 豊見城市長 金城豊明

### 13:20~16:20 **基調講演** 「宅老所とは何か ～今一度考える～」

認知症になっても障がいがあっても、住み慣れた地域で、自分らしく暮らし続けたいという、高齢者の願いや、そうさせたいという家族の思いを受け止めて生み出された宅老所。その成り立ちから宅老所とは何かを明らかにします。

神戸学院大学総合リハビリテーション学部 准教授 藤井博志

### セッション1 「家族や友人、地域社会とのつながりを断ち切ることなく関係を継続させる支援とは」

宅老所は、住み慣れた地域で最期の時まで暮らし続けたいという、本人の思いに寄り添い、自宅やそれに近い環境で、家族や友人など、地域社会とのつながりを保ちながら暮らし続けられるように支援してきました。このセッションでは、地域の方々とともに本人の在宅生活を支えていく、宅老所の実践について考えます。

●パネラー  
生活リハビリクラブきらら(宮城県) 代表 内海 静子  
共生舎なんてん(滋賀県) 代表 溝口 弘  
託老所あんき(愛媛県) 代表 中矢 暁美

●コーディネーター  
神戸学院大学総合リハビリテーション学部 准教授 藤井博志

16:20~16:40 **休 憩**

### 16:40~18:10 **トークセッション** 当事者発「病気でしあわせ 治りませんように…」 ーべてるの家が歩んだ道ー

べてるの家は、1984年に設立された北海道浦河町にある精神障がいなどをかかえた当事者の地域活動拠点です。社会福祉法人浦河べてるの家、有限会社福祉ショップべてるなどの活動があり、総体として「べてる」と呼ばれています。そこで暮らす当事者にとっては、生活共同体、働く場としての共同体、ケアの共同体という3つの性格を有しており、100人以上の当事者が地域で暮らしています。

北海道医療大学看護福祉学部 教授 浦河べてるの家 理事 向谷地 生良  
べてるの家のお二人

18:30~20:00 **懇親会**

2日目  
2/28(日)

人と人とのつながりを大切にし、誰もが安心して暮らしていくために…



9:10~10:10 **セッション2**

### 第1部 「沖縄発 利用者の人生歴から宅老所を考える」

その人の人生を知ることで今を生きる大切さが見えてくる。その人とともに送る生活の中で大切にしなければいけないのは何か？宅老所はそれを守り、支えていきたい。お二人の人生歴から紐解きます。

●報告者 宅老所たんぽぽ(沖縄県) 代表 多嘉良 進  
宅老所ももの園(沖縄県) 事務長 照屋 匠  
●コメンテーター 蒲生の家今福本店(大阪府) 代表 瀬川 雅和

10:10~10:30 **休 憩**

### 10:30~12:10 **第2部 「沖縄発 老いを支える仕組みを考える」**

「共同売店」は、地域の人たちがお金を出しあって設立し、みんなで運営。儲けが出たら地域に還元するという、まさに、地域密着のお店です。沖縄の人たちの助け合いの心「ゆいまーる」が育んだ地域のお店です。このセッションでは、「ゆいまーる」に代表される、人と人とのつながりを大切にしたい「助け合い支えあう」活動をもとに、老いても地域で暮らしつづけるための仕組みと課題について考えます。

●課題提起 共同売店ファンクラブ 事務局 眞喜志 敦  
沖縄県立看護大学老年保健看護学部 教授 大湾 明美  
●パネラー 蒲生の家今福本店(大阪府) 代表 瀬川 雅和  
沖縄県立看護大学老年保健看護学部 教授 大湾 明美  
●サポーター 沖縄大学人文学部 准教授 西尾 敦史  
●コーディネーター 沖縄県福祉人材研修センター 所長 知念 貞子

12:10~13:00 **昼 食 ・ 休 憩**

### 13:00~15:00 **まとめのセッション** 「宅老所のこれからの進む道」

介護や支援を必要とするのは、高齢者だけではありません。このセッションでは、高齢者、障がい者、子どもなど地域の誰もが安心して暮らしていくために必要な支援について、宅老所の実践をとおして考え、今後の宅老所のあり方について考え合います。

●パネラー 熊本県地域ふれあいホーム連絡会(熊本県) 代表 川原 秀夫  
浅茅の里(沖縄県) 代表 座波 園子  
宅老所・グループホーム全国ネットワーク 代表世話人 惣万 佳代子  
沖縄県福祉保健部 参事 川久保 重之  
厚生労働省大臣官房総務課 企画官(老健局併任) 藤原 朋子  
●コーディネーター 福祉と医療・現場と政策をつなぐ「えにし」ネット 志の縁結び係  
国際医療福祉大学大学院 教授 大熊 由紀子

15:00~15:10 **閉 会**